

## 次世代経営研究会実施報告



# イノベーションを創出する技術経営への取り組み

事業部会経営委員会  
次世代経営研究会運営委員会

## 1. はじめに

2021年5月18日（火）に「次世代経営研究会第3回定例会」をTeamsによるリモートの形式で開催した。参加者は関係者を含めて38名であった。

今回はコニカミノルタ(株)技術戦略部/技術支援グループリーダー（部長）の武部浩太郎氏をお招きして、「イノベーションを創出する技術経営への取り組み」の演題でご講演いただいた。コニカミノルタはお客様すら気づかない課題を提起して、持ち前の「光と画像」技術にAI・IoT等の最新のデジタル技術を融合し、お客様とともに解決する「課題提起型デジタルカンパニー」を目指して歩んでいる。伝統的なものづくり企業を変革するための仕掛けとイノベーションを創出するためのさまざまな仕組みについて、また急速に進化するAI・5G等のデジタル技術との融合による新たな技術革新を活用し、DX活用による新たな価値の創出に向けた今後の取り組みと課題についてご紹介いただいた。

さらに講演後にそれを受けてパネルディスカッションを行った。その概要を報告する。

## 2. 開会挨拶（品質工学会・会長 椿広計）

次世代経営研究会も第3回を迎えることができた。谷本前会長の尽力とリーダーシップで本研究会を立上げていただいた。品質工学会では品質工学の方法論的な部分の検討、研究、研鑽、ディスカッションがあるが、次世代の経営に何をなすべきかに必要な知というものを議論しなければならないという谷本前会長のご意思は非常に重要だと思う。品質工

学会は産業界の方が主体の学会であり、産業界が次世代に何をしなければいけないかということについて真剣に考えていると思う。私は品質工学会以外に品質管理学会等でも活動してきたが、特に品質工学会では技術経営（MOT：Management of Technology）で非常に先端的なことを田口玄一氏以来発信していると思う。その技術経営と品質経営（TQM：Total Quality Management）をいかに融合していくかということもマネジメントサイエンスにおける非常に大きな問題であり、産業界の次の一手につながっていくのだろうと思う。その中で、次世代の管理技術をどう支援できるか、今日のテーマに関わるかもしれないが、人材開発の次の一手をどう考えなければいけないのか、そういうことのWhat to Doを本研究会の中で探索していく、品質工学会自体が日本の産業界、社会の中でどういう活動をしていくか考える、計画する、議論する、非常に自由闊達な議論の場として本研究会ができていないかと思う。私自身は方法論を主体にやってきたが、次世代の経営という社会課題に品質工学会が一定の情報発信をできると期待している。本日はイノベーションというテーマで武部浩太郎氏にご講演いただき、私も参加するパネルディスカッションでは、イノベーションのマネジメントに関して経営学の立場から藤本隆宏氏、デザインシンキング、これからのイノベーションのことを原田洋一郎氏に語っていただき、それに対して学会員がどう考えていくか、吉澤正孝氏にうまくまとめていただけたと思う。限られた時間だが、活発で自由な議論の場が創成されることを会長として希望している。